

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（マネジメント）	氏名	新井 智
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目			
<p style="text-align: center;"><b>製品開発技術者のコンピテンシーに関する研究</b>  <b>——組み込みソフトウェア技術者を対象として——</b></p>			
論文審査担当者			
主査	教授	星野 一郎	
審査委員	教授	村松 潤一	
審査委員	教授	椿 康和	
審査委員	准教授	加藤 厚海	
〔論文審査の要旨〕			
<p><b>【特徴と概要】</b></p> <p>本論文は、自動車産業における組み込みソフトウェア技術者にかかるコンピテンシーについての研究である。申請者である新井 智氏は、みずから自動車製造会社に勤務しながら、そこでの経験と知見にもとづき、かつそこから生じた問題意識に立脚したうえで、本論文を構想、執筆したものである。</p> <p>本論文が目的としていることはつぎの点である。組み込みソフトウェア技術者の育成においては、おもにOJT（On the Job Training）によることが多く、そのために、かれらの能力開発は仕事の状況や先輩社員の経験等に依存する傾向があり、そのためもあり組み込みソフトウェア技術者の技能の差が縮まらないことが多い。そうした状況のもとで、本論文においては、卓越した業績をもたらす組み込みソフトウェア技術者はどのような特性を有し、そうではない組み込みソフトウェア技術者とどのような違いがあるかを調査研究し、より秀逸な組み込みソフトウェア技術者の育成に貢献することを目的としたものである。</p>			
<p><b>【課題と考察】</b></p> <p>本論文において設定した課題にかかる実証研究の結果とその考察は、おおむねつぎのようになっている。</p> <p>① 業績評価尺度による組み込みソフトウェア技術者の層別化</p> <p>技術者の層別については、まず業績を評価する尺度を作成し、製品開発と同様の状況を再現した評価試験とかれらの上司に対するアンケート調査がなされている。評価試験は、実機と机上シミュレーションにより、市場との適合性を求めた。その分析では、林（1993）が概念化した「数量化Ⅱ類」による判別分析を実施し、業績予測式を導き出した。</p> <p>この業績予測式と上司へのアンケート結果をもとに、Dreyfus and Dreyfus（1986）が提示す</p>			

る熟達のステージ・モデルにもとづき、技術者の業績を、ビギナー、中級者、上級者、プロそしてエキスパートの5段階に分けたうえで、被評価者の判別を実施した。これらの手順により、卓越した技術者の選出に成功している。

#### ② 組込みソフトウェア技術者のコンピテンシー・モデルの導出

卓越した業績をもたらす組込みソフトウェア技術者は、クラスターのすべてにおいて現れる傾向がある。すなわち、達成重視、指揮命令、組織の理解、分析的思考、顧客サービス重視、イニシアティブ、情報の探求、人材育成、組織へのコミットメントそして対人関係の11の要素におけるコンピテンシー・モデルが導出されている。卓越した業績をもたらす組込みソフトウェア技術者とそうでない技術者を比較し、クラスターにおいては「達成とアクション」、「認知領域」、「支援と人的サービス」そして「マネジメント領域」において有意な差がみられた。

これらの結果から、本論文で主張、論証しているのは、卓越した業績をもたらす組込みソフトウェア技術者のコンピテンシーは、技術者の基本的特性である目的達成への意欲や専門知識そしてスキルが高いこととともに、チームマネジメントとしての「対人関係」、「コミュニケーション能力」そして「部下の育成」を重視した行動をとったものであることを実証的に見出している。

### 【結論と評価】

#### ① 理論的な結論と評価

組込みソフトウェア技術者を対象として、そこで Spencer and Spencer (1993) の概念を援用し、そのコンピテンシー・モデルを明らかにしたことは、理論的に大きな貢献であり、それを高く評価することができる。また日本の自動車産業における製品開発技術者を対象とした定量的かつ定性的な研究をおこない、相当な結論を提示できたことも評価できる。さらには、小池ら (2001) が提唱した「知的熟練」について、組込みソフトウェア技術者にあてはめ、具体的かつ実践的な示唆を示したことも評価できる。

#### ② 実践的な結論と評価

組込みソフトウェア技術者の業績水準を向上させるためには、新技術についての技術情報やスキルを高めるだけではなく、組織やチームが直面している課題にかんする情報の獲得（収集）や調整能力が重要であることを、実証的に証明したことは、企業等における実践的な成果として援用可能なものであると評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（マネジメント）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

備考 要旨は、1,500字以内とする。